

① 菊川市の人口分析と将来推計人口の概要

1 人口推移の現状

- ① 国勢調査における人口推移は、2000年（平成12年）以降では**2020年（令和2年）の47,789人が最も多くなっています。**
【図1】
- ② 住民基本台帳における人口推移では、**2008年（平成20年）11月の49,971人をピークに、リーマンショックや東日本大震災の影響で2015年（平成27年）3月には47,679人まで減少しました。**その後は増減を繰り返し、**2019年（令和元年）の48,474人から減少傾向**になっています。【図2】
- ③ 年齢3区分別にみると、国勢調査及び住民基本台帳とも、2000年（平成12年）以降、**年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向**である一方で、**老年人口（65歳以上）は増加傾向**にあります。【図1・2】
- ④ 令和2年国勢調査における**外国人人口比率は約8%**となっており、なかでも**生産年齢人口（15～64歳）では、約10%が外国人人口**であります。出身地では、**ブラジルが最も多く過半数を占め、次いでフィリピン、ベトナムの順**となっています。【図7・表2】なお、住民基本台帳における**最新（令和6年5月）の外国人人口比率は8.57%**になっています。

2 （人口増減につながる要素）自然動態・社会動態の現状

- ① **自然動態では、2006年（平成18年）以降、自然減が続いている一方で、社会動態では、コロナ禍の2020年（令和2年）と2021年（令和3年）を除き、2011年（平成23年）以降、増加傾向**にあります。【図12】
- ※ 日本人人口が減少する一方で、住民基本台帳法が2012年（平成24年）7月に改正され、外国人住民も同法の適用対象となった以降は、コロナ禍の2020年（令和2年）・2021年（令和3年）を除き、外国人人口が増加していることが挙げられます。
- ② 国勢調査における2015年（平成27年）から2020年（令和2年）の年齢階級別人口移動は、男女とも「20～24歳→25～29歳」で最も転入超過となっている一方で、**男性は「25～29歳→30～34歳」、女性は「10～14歳→15～19歳」で最も転出超過**となっています。【図14】
- ③ 自然減の内訳をみると、2014年（平成26年）以降、**死亡数は増加傾向**になる一方で、**出生数は減少傾向**となっています。【図10】

3 （人口増減につながる要素）特殊出生率・出生数・婚姻数の現状について

- ① **2018年～2022年の合計特殊出生率は、1.58で減少**していますが、**全国（1.26）・静岡県（1.33）よりは高い水準**となっています。【表3】なお、**2023年は全国（1.20）・静岡県（1.25）ともに過去最低を更新**しました。
- ② 出生数は2018年（平成30年）以降、減少傾向にあり、**2023年（令和5年）には初めて300人を下回り295人**となっています。【図10】
- ② 2018年（平成30年）以降、婚姻数は200件を超えたなかで微増減を繰り返していましたが、**コロナ禍の2021年（令和3年）に初めて200件を下回り183件**となっています。【図11】

4 昼夜間人口の現状

- ① 昼夜間人口は、2000年（平成12年）から2020年（令和2年）において、**継続して昼間人口が夜間人口を上回ることはありません**でした。流入出先の地域はともに、「**掛川市**」が最も多くなっています。【図23】

5 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口

- ① **2020年（令和2年）から2050年（令和32年）まで将来推計人口は減少傾向**となっています。全国及び静岡県とも同様の減少傾向となっていますが、**全国及び静岡県より減少率は小さく**なっています。【図24】
- ② 年齢層の**若者女性人口（20～39歳）の将来推計人口は減少傾向**となっています。若者女性人口自体が減少していることで、**出生数減少に繋がっていくことが推測**されます。【図27】
- 全国及び静岡県とも同様の減少傾向となっていますが、**静岡県より減少率は小さく、全国と同水準の減少率**となっています。